桜美林大学駅伝部

NEWSLETTER

2026 10

VOL.6

箱根駅伝予選会を終え、チームにとって一つの節目を迎えた10月。
これまで積み重ねてきた時間を胸に、それぞれが次の一歩へと進み始めます。
そして、次なる目標に向けた日々が始まります。

箱根駅伝予選会　悔しさを、次の一歩へ。

第103回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会。
桜美林大学駅伝部は、箱根駅伝本戦出場を目指してこの日を迎えました。
しかし、目標としていた結果には届かず、チームにとって悔しさの残る予選会となりました。



レースを終えた選手たちからは、自分の力を出し切れなかった悔しさや、チームに貢献できなかったことへの思いが語られました。
練習で積み重ねてきたことを本番で結果につなげる難しさ。それぞれが今回の走りと向き合い、自分たちに足りなかったものを見つめ直しています。

一方で、選手たちの言葉には、すでに次を見据える思いもありました。今回の結果を今の実力として受け止め、課題を一つずつ改善していくこと。そして、来年こそ結果で応援に応えたいという決意です。

今回の予選会では、選手たちだけでなく、多くの人がチームを支えてくださいました。ブランディングチームが目標に掲げた現地応援者数200人を達成し、沿道からの声援が選手たちの走りを支えました。目標としていた結果を届けることはできませんでしたが、これだけ多くの方々に応援していただけるチームになったことも、今シーズンを通して得た大切なものの一つです。



そして、今大会をもって競技生活に一区切りをつける4年生もいます。箱根駅伝を目指して歩んできた時間や、仲間とともに積み重ねてきた日々は、それぞれにとってかけがえのないものです。監督からも、チームを支えてきた4年生一人ひとりの努力に対する感謝が伝えられました。選手として走ったメンバーだけでなく、チームを支える立場で最後までともに戦った仲間の存在も、今の駅伝部を形づくっています。

監督が伝えたのは、今回の悔しさを忘れず、チーム全員が当事者意識を持って来年に向かうことの大切さでした。

誰か一人が考え、誰か一人が頑張るだけでは、チームは変わりません。一人ひとりが自分にできることを考え、掲げた目標に向かって一つずつ実行していく。その積み重ねが、チームを強くしていきます。

予選会は終わりました。しかし、箱根駅伝本戦出場という目標は、ここで終わるものではありません。

今回の悔しさを時間とともに薄れさせるのではなく、次の行動につなげていくこと。良かったことは伸ばし、足りなかったことは改善すること。そして、選手もスタッフも、チームに関わる全員が同じ目標に向かって歩み続けること。

来年、再びこの舞台に立ったとき、今度こそ結果で応援に応えられるように。
桜美林大学駅伝部は、新たな一歩を踏み出します。

カウントダウン

残り365日が始まる。

箱根駅伝予選会を終え、10月20日、桜美林大学駅伝部は次の予選会に向けて新たな一歩を踏み出しました。



予選会を走るメンバーがそろい、選手たちが最後まで走りきった今年の予選会。これまで積み重ねてきた努力や、日々の練習に向き合う姿を知っているからこそ、目標に届かなかった悔しさは大きなものとなりました。

そんな中、OB会長から贈られた「結果が全てである」という言葉。

どれだけ努力を重ねてきたのか、どれだけの思いを持って競技に向き合ってきたのか。

その過程を知っている人はいます。しかし、大学や応援してくださる方々、スポンサーの方々が最終的に目にするのは、予選会で残した結果です。

努力を重ねることはもちろん大切ですが、それだけでは目標に届きません。だからこそ、この悔しさを次につなげていく必要があります。

予選会を終え、再び始まった日々の練習。朝練習に取り組む選手たちの姿からは、それぞれの思いが伝わってきます。



「来年こそは」と雪辱を誓う選手もいれば、「来年も絶対に」と、再びその舞台に立つ覚悟を胸に刻む選手もいます。悔しさや焦り、そして次こそはという強い思い。それぞれがさまざまな感情を抱えながら、すでに次の目標に向かって走り始めています。

次の予選会まで、あと365日。

長いようで、きっと短い1年です。気がつけば残り二桁になり、やがて一桁になっていくことでしょう。

その日を迎えるまでには、思うように走れない日も、苦しさや不安に直面する日もあるかもしれません。

それでも、箱根駅伝出場という目標に向かって、日々の積み重ねは続いていきます。
雨の日も、風の日も。寒さが厳しくなり、雪が降る日も。冬が終わり、春が来て、灼熱の夏が訪れても、選手たちは変わらず走り続けます。

この365日をどのように積み重ね、次の予選会で何をつかみ取るのか。
その答えを求めながら、桜美林大学駅伝部の新たな1年が始まっています。

スケジュール　来月注目予定のカレンダー

11月がスタートいたします。
8日に「日本体育大学長距離競技会」、22日に「2026上尾シティーハーフマラソン」に出場します。
予選会が終わり、新たなチームで挑むレースとなります。
引き続き、温かいご声援をよろしくお願いいたします。



応援メーター　たくさんの応援をありがとうございました。

予選会に向け、桜美林大学駅伝部では「応援メーター」という企画を実施しました。

予選会で選手たちが走る総距離「210.975km」を皆様の応援（1人＝1km）で繋ぎ、200人（200km）の応援が集まったとき、残りの10.975kmを選手たちが本戦出場に向けてラストスパートするという企画です。

フォームでお申し込みを受け付けた結果、申込総数は207人。当日は、事前の応募人数を上回る方々に現地で応援していただきました。

現地応援者数200人という目標を掲げて始まったこの企画。しかし、企画当初はなかなか応募者数が増えず、本当に200人という大きな目標を達成できるのか、不安や諦めの気持ちが膨らむこともありました。

それでも、SNSを中心にチームの活動や私たちの想いをチームでは発信し続けてきました。

そして迎えた予選会当日。
200人を超える方々に見守られ、温かい拍手に包まれながら、私たちは予選会を終えることができました。

応募者数が200人を突破したときの喜びはもちろん、予選会当日、最後にみんなの原っぱに集まった皆様の姿を目の当たりにし、私たちがこれほど多くの方々に支えられていることを改めて実感しました。

この企画を通して、応援してくださる皆様の存在と、その応援が持つ大きな力を改めて感じることができました。

本当にありがとうございました。

皆様からいただいた応援は、これからの私たちの大きな力になります。これほど多くの方々に見守られ、応援していただけることは、決して当たり前ではありません。

皆様からいただいた想いに結果で応えられるよう、私たちはこれからも走り続けます。

今後も桜美林大学駅伝部への温かい応援を、引き続きよろしくお願いいたします。

